

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

安行原蛇造り保存会

江戸時代中期から行われたと伝えられ、天下泰平・景況好転・五穀豊穡・交通安全などを祈願し、毎年、5月24日に開催される安行原の蛇造り。藁を編んで長さ約10メートルの蛇を造る伝統行事を伝承する保存会のみなさんを岡村市長が訪問。蛇造りの由来などをお聞きしました。



市長 みなさんこんにちは。いよいよ風薫る5月、青葉・若葉が目眩しい季節になりました。今月の市長のふれあい訪問は、「安行原蛇造り保存会」のみなさんです。どうぞよろしくお願ひいたします。

はじめに、会長の沖田さんにお聞きしますが、蛇造りの由来はなんですか。

沖田（雄） この地域が武蔵国と呼ばれていた時代、蛇（へび）は益虫とされ、その化身が蛇（じや）であったとも言われていました。その蛇を農民が祀っていたと言い伝えられています。また、戦国時代に討死した武士をこの地に手厚く葬ったことで、その人が蛇身となって見守ってくれたとも言われ、約300年前に蛇造りが始まったと伝えられています。

市長 300年前ということは、江戸中期ごろからこの行事が続いているのですか。

保存会が発足したのは、いつごろですか。



平岡 私の父親の代になります。が、「安行原の蛇造り」が全国放送のテレビ番組で紹介されたことがきっかけで、30年くらい前に保存会が発足したと聞いています。

市長 どの部分を造るのが、一番難しいですか。

沖田（飛） 顔の部分を造り上げるのが大変です。特に上顎と下顎を造るのが大変で、毎年携わっていますが、造るたびに表情の違う蛇ができます。

耳・鼻・ひげ・まつげなども藁で編み上げて造り、目はもみ殻を半紙に包み墨汁で円を描いて造ります。

森田 最後に、時節に応じた祈願文を結びつけます。サッカーのワールドカップが日本で開催された時は、日本の必勝を祈願したこともありました。

沖田（雄） 祈願文は時代の変

化に応じて考えています。現在は、「交通安全」や、世の中の悪を吞んで消すという意味の「世悪吞消」を祈願文に追加しています。

市長 毎年、5月24日に行われていますが、なにか意味があるのでしょうか。

山田 昔は稲作農家が多く、この時期はどこの家でも田植えが終わって一段落し、多くの人が集まったため、この時期になったと言われています。

市長 蛇は1日で造り上げるのですか。

小清水 はい。毎年のことですが、午前中から造り始め、午後には終わります。

押田 無事完成し、ケヤキの隣にある櫓に設置したときは、ひと仕事終えたという感じになります。その後、御神木のケヤキの下で子どもたちにお菓子を配

り、大人は蛇造りに使用した藁を燃やしながらか、お神酒をいただきます。

市長 百万編という行事も同じ日に行うと聞いていますが。

沖田（飛） 長さ8メートルくらいの麻縄に数珠玉をとおし、その数珠を引っ張り合う行事です。麻縄が切れ、数珠が飛び散るとその年は豊作になると伝えられています。また、「蛇造りが無事に終わりました。この一年間見守ってください。」という意味も込めて行っています。

市長 昭和51年に川口市の無形民俗文化財に指定され、みなさんは、その伝承者です。そして、この蛇造りは、地域の方が一致団結しなければできない行事です。後継者の育成や蛇造りの魅力を後世にしっかり伝承していただければと思います。私も応援していきますので、これからもよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございました。

